

令和2年度宇治市公共下水道事業懇話会（第2回） 会議録（概要版）

日時	令和2年12月3日（木） 14時～15時05分
場所	市役所8階大会議室
出席委員	山田（淳）会長、山田（秀）委員、吉田委員、小山委員、居原田委員、池本委員
オブザーバー	城南衛生管理組合花畑業務課長
事務局	秋元上下水道部長、山田上下水道部副部長（兼）水道総務課長、横山上下水道部技術参事（兼）下水道建設課長、蒲原下水道計画課長、横山下水道管理課長、公文水管理センター場長、辻村下水道計画課副課長（兼）庶務係長、船川下水道建設課副課長（兼）事業第2係長、重谷下水道計画課計画係長、乾下水道計画課主任、阿部下水道計画課技師、脇屋下水道計画課技師
会議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議題 （1）今後の投資見通しについて （2）今後の汚水量・使用料・企業債（汚水）の見通しについて （3）今後のスケジュールについて
傍聴者	なし

〈会議経過及び内容〉

1. 開会
2. 上下水道部長あいさつ
3. 議事
4. 閉会

（1）今後の投資見通しについて
事務局より、資料に基づき説明。

【主な意見等】

- 無駄なく節約して投資を行っていく予定であれば問題ないと思う。

（2）今後の汚水量・使用料・企業債（汚水）の見通しについて
事務局より、資料に基づき説明。

【主な意見等】

- 新たな起債はどのような見積もりか。
⇒基本的には、補助事業は50%が国庫、残り50%は起債である。単独事業については全て起債としている。
- 資料2のP2の生活用水量原単位は宇治市の数字か。
⇒宇治市の数字である。

- 資料2のP1の接続人口は処理区域内人口に人口接続率をかけて算出しているが、処理区域内人口を算出するときに人口接続率は使っていないのか？
⇒処理区域内人口は、計画区域内人口における整備済の地域の人口である。
- 10年後の状況を考えてどこまで投資をするかを判断することは難しい。東宇治浄化センターの規模は今のままでいいのか。せっかく整備したのに需要が減って使わないことにならないか心配。流域下水道も含めて東宇治浄化センターの存在価値を考える必要もあるのでは。
- 赤字にならないように考えていると思うが、もっと具体的にどうするのか教えてほしい。
⇒投資計画として、汚水はまず残っている整備を進めていく。雨水はどこまで整備するか決まっていない状況。今後10年の使用料収入は横ばいであり、企業債償還金も横ばいであるが、10年後以降は両方とも減っていく見込みである。
- 浄化槽世帯、特に古い設備である単独浄化槽世帯に下水道に接続してもらえようような努力を行ってはどうか。
また、汲み取り世帯への接続の普及促進が必要。しかし、高齢者世帯や独居世帯が多く、接続してもらおうのが難しいのも事実。
↓
接続されても収入としては少ないかもしれないが、取り組みとしては重要。
- 接続してもらえない世帯への融資や利息の補助金等の接続率向上の施策はどのようなものがあるか。
⇒供用開始後3年以内に融資を受けた場合の利息補填や普及員の訪問による接続のお願い、文書によるお願い等を行っている。
- 別紙1に貯留管、調整池の整備予定か所が3か所示されているが、これまで実施されたところはどこか。
⇒平成26年度以降については、開第一児童公園、西大久保小学校、西小倉小学校、西宇治中学校、伊勢田小学校、老ノ木貯留管の6か所

(3) 今後のスケジュールについて

事務局説明